

令和4年度

事業報告書

自 令和 4年 4月 1日

至 令和 5年 3月31日

社会福祉法人 岡谷市社会福祉協議会

目 次

I.	基本理念・基本目標・総体的な取り組み	1
II.	地域福祉事業の執行状況	2～
III.	介護保険事業・障害福祉サービス事業実績報告	22～
IV.	法人経営事業実績報告	27～
V.	岡谷市社会福祉協議会事業推進組織・役職員体制	29
VI.	主たる事業・会議等の開催	29～

I. 基本理念・基本目標・総体的な取り組み

基本理念

みんなが結びつき 支えあいが重なる 共生のまちをめざして

基本目標

“つながる⇄つなげる⇄ひろげる⇄まもる”をキーワードに、基本理念の実現をめざして、以下の4つの基本目標を掲げ、事業を推進します。

総体的な取り組みについて

第4次岡谷市社会福祉協議会地域福祉活動計画がスタートした。

活動計画の完成に合わせて各区及び地区社会福祉協議会を訪問し、計画の周知やお宝探し講座についての説明や開催のお願いなど行ってきた。

6月3日には、岡谷市地域福祉ネットワーク会議の学習会として、「おかやの未来へ ともに支えあう地域福祉を考える」学習会を開催し、改めて地域のつながりや何気ない支えあいの大切さについて考え、これから地域において地域活動計画やお宝探しを進めていくための良いきっかけづくりとなった。

また、岡谷市の特性である他に例を見ないほどまとまりのある地域コミュニティを形成している区をはじめ地区社協など様々な組織が、地域の人々の暮らしを支えている点に着目して、支えあいの地域づくりを進めてきた。

その方法として、新型コロナウイルス感染症の状況を見る中で、区や地区社協の役員などを対象に小さな単位での「地域のお宝探し講座」を開催し、日常生活の中の何気ない支え合いや地域活動などの大切さについて改めて周知を図った。

重層的支援体制整備事業に向けては、行政の担当者との打ち合わせや研修会、先進地との情報共有などを積極的に行いながら、6年度の開始に向けて準備を進めてきた。

その他、成年後見制度の相談に関連して、公正証書遺言の作成等の相談対応が求められるなど、終活や死後事務対応等の必要性の高まりが感じられ、今後の取組みに向けた検討に着手した。

令和4年度は、年間を通して岡谷市社会福祉協議会経営計画の策定に取り組んできた。

法人・事業所としての理念、経営方針や職員の育成・体制強化などについて、職員同士が多くの話し合いの機会を持ち、職員自らの思いを盛り込んだ計画となった。

II. 地域福祉事業の執行状況

基本目標 1

支えあいがつながる 地域づくりの推進

地域のお宝探し講座を中心に各地区において日常の暮らしの中の何気ない支えあいやつながりなど、気にかけて関係の大切さや、地区や地区社協をはじめとする地域の活動の大切さについての意識啓発を行ってきた。

合わせて、市内の小中高校と連携した福祉学習会の開催やボランティア関連の講座の開催を行うなど新たな活動の担い手に繋ぐべく以下の事業を行ってきた。

実施事業

(1) 地域のお宝探し講座（支えあいの実態調査）

5月26日 橋原地区社協(説明)	6月3日 西堀地区社協(説明)
6月8日 今井地区社協(説明)	6月10日 CLCとの打ち合わせ
6月13日 小坂地区社協(グループワーク)	6月17日 横川地区社協(説明)
6月24日 下6ヶ地区社協役員研修会	7月7日 西堀地区社協(グループワーク)
7月25日 三沢地区社協(説明)	3月3日 下浜地区社協(説明)

昨年度から引き続き、「お宝さがし」が地域づくりの活動、地域を考えるきっかけとなるよう、地区社協の理解、協力のもと取り組みを進めてきた。福祉推進員が集まる会議等に参加をするよう声をかけてくれる地区社協も増えてきており、導入部分として「お宝」＝日々の暮らしの中の“支えあい”や“つながり”についての説明を丁寧に行い、地域への浸透を図った。

新型コロナウイルスの影響で予定していた講座が中止となる地区もあったが、グループワークを実施した地区では、「講座に参加したことで地域での見守りを実感するようになった」といった声も聞かれ、活動の手ごたえも感じられた。

開催ができない期間は、お宝探しの様子をまとめたチラシを作成し、地区社協会長会懇談会等で配布し、あらためて活動への協力をお願いしながら再開に向けての準備を進めた。

今後は、新型コロナウイルス感染症が5類移行となるため、少人数の集まりにとどまらず、会議や研修会などでの開催について積極的にアプローチしていきたい。

(2) 岡谷市社会福祉大会・ふれあいボランティア祭り

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために規模を縮小しての開催としたが、久しぶりに講演の部を開催することができた。終活という身近なテーマでもあり、多くの皆様に聴講いただき、大変好評であり、関心の高まりが感じられる講演となった。

ふれあいボランティア祭りについては、今年度も開催見合わせとなった。

開催日 令和4年11月12日(土) 開催場所 岡谷市カノラホール(小ホール)

参加者 約200名

【式典の部】 表彰 65名 6企業 感謝状 2個人 5団体/企業
共同募金会感謝状 10団体/企業

【講演の部】 終活と人生設計について～元気なうちにできること・将来に困ること～
後見制度から死後の手続き・家族信託までについて

司法書士 木村 和彦 氏

(3) 社協だより「ゆめ」、ホームページ、フェイスブックの活用

・社協だより「ゆめ」

4月号「提供会員養成講座 受講生募集」

5月号「第4次岡谷市社会福祉協議会地域福祉活動計画のご紹介」

6月号「地区社会福祉協議会のご紹介」「朗読講座受講生募集」

7月号「おかやの未来へ～ともに支え合う地域福祉を考える」「会費ご協力をお願い」

8月号「支えあいの地域づくり」活動報告」「ふれあいいきいきサロン事業」

9月号「ボランティア体験について」

10月号「赤い羽根共同募金ご協力をお願い・岡谷市暮らしのサービス紹介」

11月号「岡谷市社会福祉協議会会費収納にご協力ありがとうございました・共に生きる力を育む福祉教育を展開しています」

12月号「令和4年度岡谷市社会福祉大会開催」

1月号ボランティア交流研究集会「ポッチャ体験交流会」

2月号赤い羽根共同募金にご協力ありがとうございました

3月号「ボランティアセンターからのお知らせ」

・ホームページ

社会福祉協議会のホームページのシステム更新を行った。

デザインをシンプルに変更し、多くの情報を掲載することで、スマートフォンやタブレットでも見やすくなり、声の広報など様々なデータを公開することが可能となった。

セキュリティ強化を行い、ホームページからイベントの申し込みやアンケートを取ることが可能となった。

・フェイスブック

岡谷田中小学校旧3年2組の「市内をひまわりの花でいっぱいになろう」活動による岡谷市内で広がったひまわりの輪を継続的に掲載した。

諏訪湖ハイツの花壇に植えたひまわりの育つ経過をフェイスブックに掲載した。

今後も身近な地域の情報やタイムリーな情報を素早く届けるツールとして周知、活用を図っていく。

(4) 社会福祉推進校事業、福祉学習会

①社会福祉推進校事業

市内14校を社会福祉推進校に指定し、福祉教育推進のために助成金を交付し、各学校において独自の福祉に関する授業や活動を行っている。

6月10日 社会福祉推進校事業会議(市内小・中・高校)

②福祉学習会

市内各学校から市社協が依頼を受け、福祉に関する学習会を開催した。

●岡谷東高等学校

6月20日 障がいについての学習 7月25日 高齢者についての学習

1月13日 1月20日 手話と聴覚障がいの学習

●岡谷南部中学校

5月31日～9月30日(計11回開催)

岡谷市社協について/福祉とは？/福祉の仕事と資格について/高齢者

障がい者/岡谷の福祉と地域貢献について

●岡谷北部中学校

7月20日 高齢者疑似体験・アイマスク体験・手話体験学習

10月17日 高齢者とは？どんなイメージ？ 出来ることと出来ないこと

●湊小学校 1～6年生対象

11月14日～17日(4日間)

1年生 アイマスク体験 2年生 エコマップ作成

3・4年生 ユニバーサルデザイン 5年生 高齢者とは？ 6年生 高齢者とは？(認知症)

講義形式の学習では、介護保険など生徒たちに馴染みのない内容のものでも、興味をもって聞く生徒も多く、福祉やその仕事についてなど知ってもらいきっかけとなった。

毎年恒例の授業となっている学校も出てきており、体験学習や学習会の打ち合わせなどを通して、福祉学習に対する先生方の関心も高まってきていると感じている。

(5) 福祉教材の貸出

貸出 1件 (高齢者疑似体験セット 4セット)

貸出件数 2件 南部中学校・湯けむり (高齢者疑似体験セット 4セット)

(6) ボランティアセンターの運営

・ボランティアセンター事業

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、活動を縮小したグループが多かったものの、新たにボランティアを始めたいという方も多く見られた。

活動を希望される方には意向を確認した上で、団体を紹介するほか、個人としてセンターに登録していただき情報提供をする等の支援を行った。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてからはボランティアの依頼も増加し、依頼者とボランティア団体のマッチングや、初回訪問時に同行などのコーディネートも行った。

10月には、新たにボランティアセンター担当者を配置し、研修や検定を受講するなど職員のスキルアップも図った。

3月にはボランティアセンターの在り方について検討するべく、センターに登録されている団体・個人を対象にアンケート調査を行った。今後は調査結果をもとに運営方法について検討を行っていく。

相談件数 23件 マッチング 4件 新規ボランティア登録 10件

各種講座等の開催

・朗読講座

新型コロナウイルス感染拡大を受けて一旦延期をしていたが、10月26日から合計で5回の講座を開催し、予定したカリキュラムを修了した。

・出前講座

7月 7日 岡谷つぼみ IPtalkのインターネット利用方法
7月21日 いちい学級 ポッチャ 7月28日 桜寿会 ポッチャ
8月25日 岡谷つぼみ IPtalk（要約筆記用ソフト）とZOOM講座
9月15日 岡谷つぼみ OBS（映像配信ソフト）講座
2月15日 岡谷田中小「あやめ基地」ポッチャ

ボランティアグループからの要請を受け、社協職員が出前講座を行った。

上記のほか、生きがいデイサービスや高齢者クラブでもポッチャの出前講座の依頼が続いている。

基本目標 2

支援を つなげる 体制づくりの推進

日常の様々な困りごと、生活課題に対して、気軽に相談できる窓口として福祉総合相談事業（心配ごと相談）をメインに、断らない相談を目指し相談体制の強化を検討してきた。

社協内部での各担当者間でのスムーズな連携や情報共有が行えるよう、つなぐシートの活用などを検討してきた。

また、生活支援体制整備事業や今後の重層的支援体制整備事業も視野に入れ、包括支援センターの保健師や行政の担当課などとの連携・情報共有についても検討するなど、行政や専門職との連携強化を意識した事業を行ってきた。

実施事業

(1) 福祉総合相談（心配ごと相談）事業

開設日数	243日（4月1日～3月31日）
延べ相談件数	221件（権利擁護・貸付関係相談件数含まず ※別途掲載）
【相談内容・対応先等内訳】	
・福祉総合相談	51件（他機関等紹介）
・ボランティア関係	23件
・障がい者関係	4件
・育児関係	58件
・まゆっこ関係（有償サービス）	48件
・ふれあいいいききサロン等	1件
・生活支援体制整備関係	5件
・その他（介護保険等）	31件

相談の多くは、依然として貸付、生活困窮等の内容が多く、貸付担当者やまいさぼ岡谷市など関係機関につなげ対応してきた。その他の相談についても、介護保険事業所や他の担当者も含め、必要に応じて他機関に連絡をとるなど「断らない相談支援」に努めている。

担当者間のスムーズな情報共有のためのつなぐシートの検討や個々のスキルアップのためのミーティングや研修会などへの積極的に参加してきた。

(2) 結婚相談事業

開所日数	51日（臨時相談日2日含む）		
相談者数	男性 28名	女性 41名	親族等 19名
令和4年度新規登録者	男性 10名	女性 5名	
3月31日現在登録者数	男性 24名	女性 9名	お見合い件数 4件

9月24日（土）と2月25日（土）に岡谷市社会福祉課が主催したイベントへ協力（登録者への呼びかけ、記念品購入等）を行った。

新たに岡谷市内の県婚活サポーター登録者との連携を図り、今後も相談、マッチング体制の強化を図っていく。

(3) 生活支援体制整備事業（岡谷市受託事業）

何気ない日常の中の人とのつながりや支えあいを意識し、自分たちの暮らす地域をあらためて見つめ直し、地域づくりや地域活動への関心を高めてもらうきっかけとなるよう「地域のお宝探し講座」を中心にすすめている。

「お宝探し講座」は新型コロナウイルス感染症の影響で思うように展開していくことは難しかったが、開催した地区では、「地域のことを考えるきっかけになる」「地域の見守りを意識するようになった」といった声が聞かれ、地道な活動の中に地域課題に向き合い話し合う下地が少しずつ広がっていく手ごたえも感じた。

お宝探し講座の取り組みを始めて2年になるが、会議等で開催の呼びかけ、お願いを繰り返すことで、関心を示してくれる区も増えている。今後開催した区には、その様子をまとめたチラシを作成しフィードバックしていき、地域の中での広がりにつなげていきたい。

生きがいデイサービスや高齢者クラブ、ふれあいいいききサロン等介護予防に関する活動については、コロナ禍でも実践可能な活動を継続し、フレイル予防、つながり、気にかけて合う関係を継続するために活動のサポートも行った。どの活動にも担い手不足の課題はあるが、まずは活動を知って関心を持ってもらえるよう、訪問を行い、「見える化」(情報発信)に力を入れていく。

6月3日(金)「おかやの未来へ ともに支えあう地域福祉を考える」学習会を地域福祉ネットワーク会議と岡谷市とともに開催し、約100名が参加。市内2地区の活動の事例発表をしていただき、参加者からは「地域のことを考える良い機会を得た」等の感想をいただいた。

「岡谷市暮らしのサービス紹介」は内容更新も行うとともに、新たに3事業所を加え、令和5年3月版として3000部を発行。市、社協、区の窓口に設置するとともに、包括、ケアマネ等の専門職に活用してもらおうべく配布した。

個別の困りごとを把握するために市包括支援センターと社協の連携・協働の場を設け、日々の業務、活動から把握した個別の課題・地域課題の共有を図った。重層的支援体制づくりに向けより一層連携、協働が進むようよう取り組みを進めたい。

4月15日	CLCと学習会打ち合わせ	5月6日・30日	社会福祉課・介護福祉課と学習会の打ち合わせ
5月9日	橋原地区社協会長と学習会打ち合わせ	5月13日	小坂地区社協会長と学習会打ち合わせ
5月19日	カシオ「Ayamu」の説明	5月26日	橋原地区社協・岡谷社協合同会議
5月31日	橋原・小坂地区社協会長と事例発表打ち合わせ		
6月3日	おかやの未来へ ともに支えあう地域福祉を考える学習会		
6月10日	(CLCとZoom打ち合わせ)	8月26日	(介護福祉課との打ち合わせ)
9月7日	(介護福祉課との打ち合わせ)	9月7日	(地域包括推進研修)
9月14日	(橋原区訪問)	9月15日	(介護福祉課との打ち合わせ)
9月15日	(信州で暮らしていこうフォーラム)	9月22日	(重層的支援体制整備事業セミナー)
9月22日	(重層的支援体制整備事業 視察打ち合わせ)		
9月26日	(重層的支援体制整備事業 伊那市・飯田市視察)		
10月7日	(介護福祉課との打ち合わせ)	10月13日	(CLCとZoom打ち合わせ)
10月18日	(社会福祉課・介護福祉課と重層的支援体制整備事業打ち合わせ)		
10月28日	(介護福祉課との打ち合わせ)	11月29日	(介護福祉課との打ち合わせ)
12月12日	(包括支援センターとの座談会 情報共有、連携・協働への取り組み)		
12月16日	(介護福祉課との打ち合わせ)	3月8日	(介護福祉課との打ち合わせ)

(4) 生活困窮者等支援事業

・生活福祉資金貸付事業（長野県社協受託事業）

緊急小口資金特例貸付	14 件	2,270,000 円	総合支援資金特例貸付	9 件	4,500,000 円
福祉費 転宅費	1 件	370,000 円	緊急小口資金	2 件	200,000 円
緊急小口資金特例貸付償還免除	71 件	10,739,200 円			
総合支援資金特例貸付償還免除	53 件	27,476,250 円			

貸付期間の延長が続いてきた新型コロナウイルス特例貸付が9月末に終了となった。令和2年3月の開始以来2年6ヶ月の間、岡谷市では501件 158,240千円の貸付を行った。

1月から償還が始まり、県社協やまいさば岡谷市と連携しながら対応にあたる準備を進めてきた。特に大きな混乱は無いものの、手持ちの資金がなく償還ができない人が増えている。

今後は償還指導に当たる職員体制の構築が大きな課題であり、検討する必要がある。

・助け合い資金貸付事業

貸付相談	33 件				
貸付件数・貸付額	9 件	145,000 円	償還件数・償還額	12 件	102,000 円

外国籍の相談者が急増し、社協の貸付相談だけでは対応困難となっており、今後は、福祉分野に限らず様々な機関等との相談・支援の連携・強化が必要と考えている。

・フードバンク

受け入れ 件数	37 件	(米、缶詰、お茶、お菓子、レトルト食品)	
払い出し 件数	47 件	(米、缶詰、お茶、お菓子、レトルト食品等) 実人員 28 名	

物価が高騰したため利用者が増加し、提供できる食料品が不足してきている。協力者も増えてきてはいるが寄附のお願いなど広報等で継続的に行っていく。

・日用品緊急支援（長野県社協事業）

日用品セットの配布事業、食料品支給と併用して24件の利用があった。

・生理の貧困事業

令和3度に市で実施した事業から引き続き、生理用品の寄付の受付、相談者等への配布（昼用・夜用で1セット）を行った。

寄付	80 袋	在庫数	84 袋
配布数	18 セット(貸付・生活困窮相談者、子ども食堂へ)		10セット(社会福祉課へ)

(5) 地域サポートセンター事業

6月3日開催の学習会を、今年度第1回目となる地域福祉ネットワーク会議として位置づけ、委員（区長、地区社協会長、サポートセンター長）に参加を呼び掛け、多くの方に参加いただいた。

岡谷市が重層的支援体制を整備していくにあたり、地域の中でサポートセンターがどのような位置づけで活かされることが望ましいのか、役割や機能について改めて周知していく。

(6) 地区社協活動への支援・連携

地区社協基盤強化助成金	21 地区	2,310,000 円
福祉推進員助成金	327 名	327,000 円
地域福祉活動振興補助金		2,784,500 円
4月13日 地区社協役員研修会	第4次地域福祉活動計画を配布し内容の説明	
6月16日 地区社協会長会総会	6月3日に開催された福祉学習会の2地区の(橋原地区社協、小坂地区社協)活動発表のポイントを紹介	
1月17日 地区社協会長会懇談会	コロナ禍での地区社協活動についての情報交換	
2月8日 岡谷市健康福祉部と地区社協会長会との懇談		

例年8月、12月に開催している地区社協会長会の懇談会は中止としたため、地区社協会長同士で顔を合わせる機会がなく、情報交換ができなかったが、1月・2月には初めて健康福祉部課長との懇談会を開くなど、次年度への顔つなぎとコロナ禍であっても情報交換ができた。

(7) 子どもの居場所・子ども食堂への支援

7月11日	第1回諏訪地域における子どもを育む社会のあり方検討会参加
10月20日	若者サポートプロジェクト「中南信キックオフセミナー」参加
10月28日	青年年齢引き下げより半年、見えてきた影響～現役高校生の声を聴く～ ZOOM 参加
10月31日	第2回ひきこもり支援実践研究会参加
12月22日	第3回諏訪地域における子どもを育む社会のあり方検討会参加
2月6日	第4回諏訪地域における子どもを育む社会のあり方検討会参加
3月8日	第3回ひきこもり支援実践研究会参加

関係する検討会や研修会などに積極的に参加し、情報の共有を行い支援内容などについて検討してきた。

(8) ふれあいいいきサロン

登録グループ数・会員数	5グループ	116名
-------------	-------	------

新型コロナウイルス感染症の拡大により活動休止を余儀なくされる時期もあったが、団体ごとに時間を短縮するなど、中止、再開を判断しながら、つながりを切らさない工夫をして活動を継続されていた。

活動再開時には、訪問して様子をうかがうとともに、フレイル予防講演会等の情報提供を行った。活動を休止中の団体には、再開に向けての助言等を行った。

生きがいデイサービス、高齢者クラブ等と一体的に、介護予防、集いの場としての事業展開を検討支援していく。

(9) まゆっこサポート（住民参加型在宅福祉サービス）事業

・家事援助

登録利用会員	19名	登録協力会員	15名
延べ利用回数	173回	延べ時間	216時間
・相談件数(総数)	48件	・新規相談	4件

自宅の掃除や片付けといった定期的な利用のほか、一人暮らしの方のケガ等の理由でのゴミ出しや買い物のサポートで短期間のみの利用にも対応した。

社会福祉課経由での相談に対し、社協職員、市職員だけでなく、地域のボランティアである協力会員にも草刈りに入っただき、連携して対応。また身体状況の変化にともない包括支援センターとも連携し介護保険利用につなげたり、複合的な課題を抱えた家庭に対しては、子ども課とも連絡調整を行った。

市民の生活支援サービスのニーズの把握を行い、まゆっこサポートの有償ボランティアの中でどこまでのことができるのか検討していく。

・団体保育

団体預かり 依頼件数	185件	預かった子どもの延べ人数	約550名
------------	------	--------------	-------

シンコースポーツ、こどものくに、市工業振興課、川岸女声コーラスでの託児に対応した。

協力会員に気持ちよく活動を続けていただくために、10月からは、利用団体に対し当日キャンセルについてはキャンセル料金を請求し、待機、準備していた協力会員にお支払いしている。

育児ファミリー・サポート・センターの提供会員登録をした6名が団体保育での活動にも協力いただけることとなり、11月～12月にかけて実際の団体保育の様子を見学し、1月から活動されている。

引き続き、保護者が安心して講座等に参加することができるよう利用団体と連携していくとともに、協力会員も活動しやすいよう双方の調整を図っていく。

(10) 育児ファミリー・サポート・センター事業（岡谷市受託事業）

登録会員数	依頼会員	37名	提供会員	21名	両方会員	なし	(R.53.31 現在)
年間延べ利用回数		40回	託児実人数	9名	相談件数(総数)	58件	
託児理由	保護者の趣味活動	保護者検診のため	きょうだいの幼稚園行事参加				
	職場復帰にむけての準備	仕事のため	PTA 会議出席				

市から相談が入るケースも増えている。複雑な状況にある家庭に対しては、関係機関と情報を共有したり、提供会員と合同で打ち合わせを重ね対処した。

コーラスグループでの託児では、託児人数が増えてきたことから、8月からまゆっこサポート団体保育での対応に移行し継続支援している。

提供会員養成講座に8名の申し込みがあり、その後6名の提供会員への登録があった。

提供会員養成講座

- 第1回 6月2日 ファミリー・サポート・センターとは保育の心、子どもの生活へのケアと援助
- 第2回 6月9日 小児看護の基礎知識 リスクマネジメント
- 第3回 6月23日 心の発達と保育者のかかわり・障がいのある子の預かりについて
- 第4回 6月30日 子育てを取り巻く状況 社会的養護を必要とする子どもや家庭を理解する
- 第5回 7月14日 子育て支援サービスを提供するために
- 第6回 7月28日 普通救命講習Ⅲ

(11) 障害者地域生活支援事業（岡谷市受託事業）

・手話奉仕員養成講座

入門講座を6月20日から再開した。4回実施したが、7月25日から新型コロナウイルス感染拡大の影響で再度休止となり、10月3日から再開した。

申し込みいただいてから3年目となってしまったが、3月20日に6名が修了とすることができた。

・手話フォローアップ講座

手話奉仕員養成講座修了者対象	5回開催	7名参加
手話通訳者対象	5回開催	5名参加

・手話通訳者、要約筆記通訳者派遣事業

手話通訳者派遣	41回	44名（イベント・病院付添等）
要約筆記者派遣	1回	3名

• 手話通訳者設置事業

相談	3回 (IT 相談)
----	------------

• 地域活動支援センター（ひだまりの家）管理運営事業

開所日時	週5日(月～金) 9:00～15:00
開所日数	240日
定員	10名
延べ年間通所者数	789名(前年比 75名増)
1日平均通所者数	3.3名(前年比 0.3名増)
年間在籍通所者実数	18名(男性8名 女性10名)
新規通所者数	6名
通所希望見学者	12名 延べ体験日数48日 (9名述べ体験日数15日)
行事等	9月まではひだまり作業所と合同開催。(スイーツ、ケーキ会) 10月からは月に1回カラオケ会を開催した。 新型コロナウイルス感染が収まらず、多くの行事が中止となった。

令和4年度は、新規利用者が6名おり、一般就労、A型、B型等の事業所にステップアップ出来た利用者や、体調不良により長期で休む利用者がいたが、延べ年間利用者数がわずかに増加した。利用者増加の理由としては、社会福祉課、相談支援専門員等、関係機関や家族、ボランティア等と連携を図り対応できたことや、10月より専従職員を配置し、障がいの特性に応じた支援が出来たことが要因と考えられる。そのため、対応により配慮が必要な利用者の受け入れもできた。

午後は職員1名配置となるため、利用希望者が多い場合や緊急で相談、ケアを目的に来所する利用者が来る場合など、応援体制を整え家族やボランティアの協力も得ていきたい。

行事では、カラオケ好きな利用者が多いことから、新型コロナの感染状況を見て、感染対策を行いながら月1回カラオケ会を開催した。

仲良くなれるきっかけとなったり、家族やボランティアにも参加してもらったことで、利用者、職員以外の人と関われる良い機会となった。

地活での過ごし方は、テレビを見ながら世間話をする、折り紙、スクラッチ、脳トレ、体操、ダンス、リコーダー、CD、DVD鑑賞、ゲーム、書道、散歩、卓球、バレーボール、トーンチャイム、作業所の作業体験等幅広く利用者の希望に沿った活動をして過ごしている。

(その他常時、体調、生活全般にわたっての相談助言、気持ちのケア、就労に向けた情報提供相談等を行っている。)

今後もセンターに通うことで体調が安定し通うことが楽しみとなるよう、家族、ボランティアにも関わってもらおうなど、様々な企画を考え実施していく。

施設面では、利用者が重なる手狭になってしまうことから、304、305号室を借り対応しているが利用者の増加とともに、施設整備、人員体制整備も検討が必要である。

(12) 車いす移送車レンタカー事業

貸出件数	44 件
------	------

広報「ゆめ」でのPRもあり、新規で利用も増加した。中には、県外への通院に利用されたケースもあり、移動範囲を指定していないという本事業の良さが出たケースだったとも言える。

また、通院目的での利用が多いものの行楽等での利用も一定数あり、様々な形で本事業の掲げる「生活圏の拡大」につながったように思う。

現在、要綱に運転者を移動困難な方の同一世帯の者と定める項目があり、利用のしづらさにつながっている部分もある。今後、より利用しやすい形を模索する。

(13) 車いす貸出事業

貸出件数	23 件（貸し出し台数 延べ 29 台）
------	----------------------

利用の目的としては旅行の際に利用したいというものが多かった。

これまで車いすを自走か介助用かで分類をしていたが、今後は折り畳み機能などコンパクト化などの観点も加えて整理しなおし、利用の目的に応じて貸し出すようにしたい。

基本目標 3

参加・協働を ひろげる 仕組みづくりの推進

お宝探し講座などを通して、生きがいデイサービスや高齢者クラブ、ボランティア活動、広くは趣味の集まりなどを社会や地域への参加のきっかけと捉え、その活動の大切さや意義を広める活動を進めてきた。

障がい者や子どもたちに対しても社会や地域とのつながりを意識した事業を展開してきた。

また、それぞれの活動や事業が相互理解を深め、連携・協力しながら継続していけるよう支援を行ってきた。

実施事業

(1) ボランティア体験事業（サマーチャレンジ）

受入れ協力施設	23 施設	高齢者施設(4)	障がい者施設(2)	保育園(14)	公共施設(3)
参加申し込み者	98 名	中学生(75)	高校生(21)	大学、専門学校生(1)	一般(1)

ボランティアの体験先を、これまでの保育園、高齢者・障害者施設の他に、考古美術館等の公共施設や社協事業などにも幅を広げ、コロナ前とほぼ同数の参加申し込みがあった。

しかし、7月20日に「医療警報」の発令、感染警戒レベルが4に引き上げられたことにより、事業は中止となった。

社協事業におけるボランティア体験については独自で行うこととし、参加申し込み者に案内したところ延べ13名の参加希望があった。計5日間にわたってウエスづくり、缶バッジづくり、メッセージカードづくりを行った。ウエスは訪問介護事業所、缶バッジは赤い羽根共同募金、メッセージカードは生きがいデイサービスで活用した。

事業自体は中止になったものの、体験のバリエーションを増やすことができた。今後も生きがいデイサービス等の他事業と連動する形でもボランティア体験を準備し、参加者が様々な体験をできるよう努める。

【社協独自体験事業状況】

8月2日	ウエスづくり	参加者3名	8月4日	缶バッジづくり	参加者2名
8月5日	メッセージカードづくり	参加者1名	8月8日	缶バッジづくり	参加者6名
8月10日	缶バッジづくり、メッセージカードづくり 参加者1名				

(2) 生きがいデイサービス事業（岡谷市受託事業）

（68グループ／ 558名 利用登録）

新型コロナウイルスの影響で休止が続いていたが、感染対策の徹底を行い、6月より再開することができた。その後、7月下旬に急遽休止となるも、10月中旬より各グループ順次活動を再開できた。

活動休止中は援助員・ボランティアを中心にご利用者宅を訪問・電話をかけるなど、休止期間中の利用者の様子確認を行っていたほか、社協でも「生きがいデイサービス通信」を全利用者に郵送した。通信にはサマーチャレンジに参加予定だった岡谷市の中学校・高校の生徒が作製した蝶のメッセージカードを同封しており、大変好評であった。

再開後は、利用者の喜びの声も多く聞かれた。休止期間が長かったこともあってか、「体を動かしたい」という声も耳にするようになり、社協でポッチャ等のニュースポーツのレクチャーをすることで対応した。

現在、活動時間を2時間に短縮しているが、今後4時間活動の再開・昼食の再開について協議が必要になる。画一的に活動時間を指定するのではなく、グループごとの事情を考慮した形での移行を目指していく。

4月27日	援助員会議（生きがいデイサービス休止基準を見直し）	
5月26日	援助員会議（再開にあたっての感染対策等を協議）	
6月1日	生きがいデイサービス再開	
7月25日	生きがいデイサービス休止	
9月中旬	生きがいデイサービス通信発送	
9月29日	援助員・ボランティア養成研修（認知症VR体験会）	
10月6日	援助員会議（再開の時期や留意点について協議）	
10月17日	生きがいデイサービス再開	～以降中止することなく開催～

地区	利用者人数	援助員人数	ボランティア人数	開催場所
今井	28名	15名	17名	今井区公所・今井区民センター
間下	43名	14名	16名	間下区民センター
岡谷	25名	12名	12名	岡谷区公所
下浜	9名	2名	3名	下浜区民センター
小尾口	6名	1名	5名	小尾口区公民館
上浜	11名	—	8名	上浜公民館
新屋敷	12名	—	9名	新屋敷会館
小口	17名	1名	8名	小口区民センター
小井川	86名	9名	26名	小井川区民会館・赤羽事業所
西堀	166名	8名	20名	西堀区公所
小坂	10名	—	8名	小坂公民館
花岡	10名	—	4名	花岡区民センター
三沢	15名	2名	9名	三沢区コミュニティ施設
新倉	27名	—	12名	新倉区公所・夏明公所
駒沢	12名	—	8名	駒沢公民館・荻山会館
鮎沢	5名	—	6名	鮎沢区公所
橋原	8名	6名	6名	橋原区公所
東堀	19名	3名	23名	柴宮館・権現コミュニティ
中村	27名	2名	14名	中村区民センター
横川	22名	—	11名	横川公会堂
計	558名	75名	225名	

開催回数 919回
参加人数 延べ5,041人

(3) 各種団体事務

・岡谷市高齢者クラブ連合会

(14単位クラブ/792名参加)

昨年度末に小尾口区が連合会から退会し、クラブ数は14クラブとなり会員数も約100名減少した。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、諏訪湖ハイツでの例会について食事とカラオケの禁止という制限がかかり、例会を中止とするクラブが多く見られた。しかしながら、その状況下でもポッチャ等を行い、例会参加者数を増やしたクラブもあった。事務局では、そのような活動の様子を広報へ掲載するなどして、会員増強および活動の活性化を図った。

行事については、感染症拡大防止策を講じながらも体育大会以外は開催することが出来、多くの会員の参加があった。また、既存の行事内容の見直しや、スマホ教室など新規の行事を開催するなど事業の充実を図った。

5月25日 定期総会 開催 7月6日 スマホ教室(理事対象) テスト開催
 7月20日 体育大会 9月28日に変更
 9月7日 信州まるごと健康チャレンジ 開始(約60名参加)
 9月28日 体育大会 中止 10月19日 マレットゴルフ大会 開催(約40名参加)
 12月7日 カラオケ芸能大会 開催(約120名参加)
 1月25日 ボウリング大会 開催(約40名参加)
 2月18日～20日 作品展 開催(約470名参加)

• おかやボランティア連絡協議会

新型コロナウイルス感染症の影響で思うように活動を展開できない中、これまで行ってきた活動を絶やさぬよう活動している。10月のふれあい・ボランティア祭りは感染症拡大のため中止としたが、研修会や交流会は感染症拡大防止対策を講じた上で開催し、例年に劣らない数の参加者が集まった。

7月16日 研修会「フレイルを予防する食事と運動」 開催(約50名参加)
 講師 やまびこスケートの森 公認スポーツ栄養士 藤森陽子 氏
 9月17日 会員交流会「歌おう 童謡・唱歌」 開催(約70名参加)
 11月12日 岡谷市社会福祉大会 参加
 12月3日 諏訪ブロック社会福祉協議会 ボランティア交流研究集会 協力参加
 12月17日 研修会「歌おう クリスマスソング」 開催(約50名参加)
 3月24日 総会 講演「口腔 顔面の機能と嚥下について」
 講師 岡谷市民病院リハビリテーション科 瀬戸千史 氏・西岡梨沙 氏

• 岡谷市障害者福祉推進実行委員会

岡谷太鼓祭りの中止に伴い、ふれあい踊り連が今年も中止となった。

ブドウ狩りも中止となったため、昨年と同様に市内障がい者事業者を対象に季節の果実として「梨」をお届けした。

実行委員会の大きな財源の一つである福祉バザーが開催できていないため、今後の活動財源の確保について検討を行っている。

12月8日(木) 岡谷市役所において、「盲ろう者の生活や支援について学ぶ」と題し学習会を開催した。ながの盲ろう者りんごの会 会長 上原康彦さんと事務局長の善財邦子さんから、盲ろう者の生活や支援方法について学んだ。約30名の皆様の参加があり、大変関心がある様子だった。

またポッチャなど遊具の貸し出しが大変喜ばれている。いきいきデイ所有の大型遊具などと合わせて、多くの方々に利用してもらえるようPRを図っていく。

【機材・遊具等貸出】 ポッチャ貸出 34件 49セット

・長野県共同募金会岡谷市共同募金委員会

6月28日 審査委員会(実績報告・目標額の設定) 7月1日 運営委員会
9月30日 説明会 10月1日から12月31日 共同募金運動
3月6日 審査委員会(令和4年度共同募金実績報告・令和5年度配分について)

共同募金配分金より支出される地区社協活動費の還元方法について、各区を訪問し意見をお聴きした。その中で今後の共同募金運動の参考になる意見も多くいただいた。

7月から8月にかけて市内21地区を回り、配分金(地区活動費)の新しい還元方法についての説明を行い、8月の区長会、3月の委員会において了承をいただいた。

(4) 福祉推進員活動の充実

福祉推進員が集まる会議に出席し、福祉推進員の基本的な考え方や「お宝探し講座」の説明を行い、福祉推進員として自分の地域に関心を持ってもらったり、地域活動について考えるきっかけとなるよう周知・啓発を行った。

福祉推進員の活動について研修会を開く地区も増えてきており、こうした呼びかけは、毎年繰り返し行っていき、地域の中での福祉推進員の活躍につなげていきたい。

5月26日 橋原地区社協・岡谷市社協合同会議 6月3日 西堀地区社協 役員研修会
6月8日 今井地区社協 福祉推進員研修会 6月13日 小坂地区社協 福祉推進員会議
6月17日 横川地区社協 福祉推進会議 3月3日 下浜地区社協 福祉推進会議

(5) 諏訪ブロック社協事業(当番社協)

新型コロナウイルス感染状況に応じて、集合会議かリモート会議、あるいはハイブリッドの会議を開催し情報交換や協議を重ねた。

令和4年度は岡谷市が当番社協となっており、12月3日にボランティア交流研究集会(ポッチャ大会)を諏訪湖ハイツにて開催した。コロナ禍で活動を縮小したボランティア団体が多い中、まずは集まって交流することから始め、それが活動再開の契機になればと考えての交流会で、6市町村から50名を超える参加者が集った。参加者へのアンケートでは「交流ができて楽しかった」「定期的に交流ができる大会が欲しい」といった意見が見られ、集合しての交流会ができたことに対して喜びを感じてくれた参加者がとても多かった。

次年度、岡谷市は当番社協ではないが、引き続き圏域社協と密に情報交換を行い、随時連携をとれるように備えていく。

4月21日 7月28日 3月8日 事務局長・次長会議
5月23日 8月18日 9月27日 2月10日 ボランティア担当者会議
6月30日 総会
12月3日 ボランティア交流研究集会(ポッチャ大会)
12月13日 役職員研修会

基本目標 4

暮らしの安全・安心を まもる 環境づくりの推進

様々な相談に対し、意向や事情をよく踏まえたうえで、「成年後見制度」の利用を進めるなど、関係機関との連絡調整とネットワーク構築等を行う中で、その人の権利を守り、その人らしく生活が送れるよう支援を行ってきた。また、行政や専門職との連携強化を図るとともに、専門知識を持つ職員の確保や養成に力を入れてきた。

また、自然災害や新型コロナウイルス感染症などに対しても、迅速に対応し、スムーズな事業運営が行えるよう体制づくりをすすめてきた。

実施事業

(1) 権利擁護事業の推進

・日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

相談援助件数

実利用者 71名

対象者		認知症 高齢者等	知的 障がい者等	精神 障がい者等	その他	対象外
相談援助件数		623件	663件	872件	7件	1件
内訳	問合わせ	14件	2件	9件	5件	0件
	初回相談	20件	件	7件	2件	
	相談援助	589件	661件	856件	0件	
利用援助回数		延べ 2166回				
訪問調査回数		延べ 146回				
ケース検討会議		延べ 62回				

契約数・解約数

契 約	本年度契約件数	7名（内 生活保護 0名）	累計	319名
解 約	本年度解約件数	8名（内 生活保護 2名）	累計	248名

10月に専門員1名が異動し、専門員5名・支援員3名体制となった。

問い合わせ・初回相談が1月8件、2月12件、3月13件と集中し、この期間の新規契約者は全体7件の内4件であった。

経験の浅い専門員が多く、原則2名体制で面談や契約手続きを行い、チーム内で情報を共有しながら丁寧に進めた。

相談内容は、金銭管理に関するものが多く、まだ福祉サービスを利用していないケース、支援者チームが出来ていない段階での相談、債務返済や相続、家族全員支援が必要なケースなど問題が重複化・複雑化しており、今後もチーム内での情報共有、必要機関との連携を図っていく。

解約件数8件の内、死亡による解約が4件、市外への移管2件、本人希望による解約が2件であった。

・金銭管理・財産保全サービス事業

日常生活自立支援事業の対象外となるが、支援が必要な方に対し岡谷市社協が独自で行っている金銭管理事業であり、日常生活自立支援事業と同様に適切な管理、支援に努めている。

10名中7名が入所または入院中。在宅3名の内1名は、当初入院中（在宅復帰不明）のため独自契約となったが、現在は在宅生活が安定し、今後は日自契約へ移行予定である。

1月～3月にかけて全ケースの書類・預かり金・預かり物のチェックを行った。今後も定期的に確認を行い、適切な管理・支援に努める。

本年度契約件数	5件	本年度解約件数	2件	実利用者数	10件
---------	----	---------	----	-------	-----

【研修参加】

5月～2月	社会福祉士基礎研修Ⅲ（近藤）
8月6日/11月6日	社会福祉士基礎研修Ⅰ（北澤）
9月20日/10月4日	日常生活自立支援事業研修1（近藤・飯田・北澤）
10月25日	成年後見制度活用講座（近藤・北澤）
10月27/28日	日自システム説明会（水野・飯田・北澤・近藤）
3月5日	意思決定支援研修会（近藤・飯田）

・岡谷市成年後見支援センター運営（岡谷市受託事業）

開所から4年目を迎え、令和4年3月からは、市と協働する「中核機関」の位置づけとなったが、広報・啓発活動の一定の効果もみられ、新規相談・継続相談（対応）ともに多い状況が続いている。

諏訪6市町村においては、毎月の4センター連絡会のほか、9月には、上伊那成年後見センターの視察訪問を行った。この視察等を参考に諏訪圏域の「受任調整会議」のあり方についての検討が図られ、11月には専門職団体の代表者等と意見交換会を行い、翌年2月には諏訪圏域の行政と4センターで今後の成年後見制度促進整備の促進に係る関係者会議が行われた。引き続き、「受任調整会議」の仕組みやケースの課題についてより良い方向性を見出せるよう効率的な取組みを進める。

成年後見制度に対する市民ニーズの高まりが感じられる中、中核機関として市との協働のもと、引き続き、広報・啓発を行うとともに相談支援体制の強化を図っていく。

なお、成年後見制度の周知に付随し、岡谷市社会福祉大会において、「終活と人生設計について」と題して、岡谷市成年後見支援センター運営委員で行政書士事務所カーズの木村和彦代表にご講演をいただいた。

また、成年後見制度の相談に関連して、公正証書遺言の作成等についての相談対応が求められるなど、終活や死後事務対応等の必要性の高まりが感じられ、今後の取組みの検討に着手した。

新規相談件数	85 件	継続相談件数	428 件	相談者数(実人数)	230 名
相談件数合計	513 件	内 完了件数	83 件	内 継続件数	430 名
法人後見の状況		現在の後見人等の受任件数 3 件			
対象者別	認知症	172 名	相談内容	問合せ・相談	97 件
	知的障がい	175 名		申立て支援	4 件
	精神障がい	156 名		継続支援	407 件
	その他	10 名		家裁への手続き	5 件
				法人後見受任	0 件

【相談者機関別】※件数の上位5項目（ ）は、全件数に占める割合

- ・本人 244 件(47.6%) ・行政(市内)※岡谷市包括含む 81 件(15.8%)
 - ・親族・家族 62 件(12.1%) ・その他(ヘルパー等) 36 件(7.0%) ・ケアマネジャー(介護) 29 件(5.7%)
- ※その他、介護施設関係者、医療機関の関係者、障がい者施設の関係者等からの相談があった。

【主な会議・打合せ・研修等】

- ・岡谷市成年後見支援センター運営委員会の開催 計 3 回
- ・諏訪地域4後見支援センター連絡会 計 13 回
- ・上伊那成年後見センター視察研修 計 1 回
- ・諏訪圏 成年後見制度利用促進に向けた体制整備に係る関係者会議 計 2 回
- ・長野県司法書士会との相談についての意見交換会 計 1 回
- ・「諏訪広域 成年後見制度 受任調整会議」 計 1 回
- ・諏訪圏域における成年後見人の受任調整のあり方に関する意見交換会 計 1 回
- ・長野県内法人後見連携会議、センター等県域連携会議 計 1 回
- ・長野県内成年後見支援センター実務者勉強会 計 1 回

・法人後見事業

岡谷市社協による「法人後見」を3件受任し、担当職員を中心に継続的な相談支援を行うとともに、適切かつ適正な財産管理等を行い、不正防止等に配慮している。

(2) 災害時救援活動体制の整備

- ・災害ボランティアセンター（災害発生時）の運営 対応なし

・県内災害時相互応援協定による被災地への職員派遣

6月7日 岡谷ライオンズクラブとの「自然災害発生時における災害ボランティアセンター支援に関する協定」の締結を行った。

10月3日～10月7日関東ブロックからの要請により、静岡県静岡市葵区災害ボランティアセンターへ派遣、第1陣として災害ボランティアセンター運営の支援助言等を行った。

・市内罹災者に対する見舞事業

県社協見舞金 3件（火災） 市社協見舞金 10件（火災・突風）

・長野県あんしん創造ねっと（県社協事業）

入居保証・生活支援事業対応 4名

岡谷市在住者の県営住宅への入居保証を行った。

（3） おかや総合福祉センター（諏訪湖ハイツ）管理経営事業（指定管理事業）

開館日数	温泉施設	306日	月平均	25.5日
	生涯学習施設	347日	月平均	28.9日
開館時間	温泉施設	10時～21時30分		
	生涯学習施設	9時～21時30分		
休館日	温泉施設	毎週水曜日		
	生涯学習施設	毎月第3水曜日		
入館者数	有料入館者	温泉施設(合計)	90,874名（前年比 66名増）	
		大浴場	66,045名（前年比 925名増）	
		リハビリ施設	7,702名（前年比 333名増）	
		福祉家族風呂	944件 2,053名（前年比 17件減 5名減）	
		生涯学習施設	5,450団体 50,992名（前年比 437団体増 2,601名増）	
	無料入館者	大浴場	14,727名（前年比 316名増）	
		生涯学習施設	982団体 12,232名（前年比 190団体増 3,697名増）	
		足湯	8,264名(300名増)	
	ロビー・ヘルストロン等	36,758名（前年比 19,250名増）		

おかや総合福祉センターの指定管理者として、福祉施設としての大浴場、福祉風呂、温泉リハビリ施設と生涯学習施設としての研修室の適正な管理に努めた。

新型コロナウイルス感染予防対策として従来までの強い制限を行わず社会経済活動を維持することを念頭に、手指消毒、マスク着用を基本とし、感染予防対策の在り方を施設独自で考え、対応を行った。

年度後半には、感染レベルも下がり、研修室利用者・団体が増加し賑わいはじめた。

全体の利用者は、19万9千人で、前年同期より約2.2万人の増、収入は2,069万円で前年より120万円増となった。

「喫茶えいびる」は、15年5ヶ月の長きにわたり福祉の売店として営業してきたが、令和4年6月30日をもって閉店となった。

Ⅲ. 介護保険事業・障害福祉サービス事業実績報告

居宅介護支援事業所・特定相談支援事業所

① 提供サービス実績

ア 居宅介護支援事業（要介護認定利用者に対する支援計画作成）

介護区分	延べ人数	月平均	前年比(月平均)
要介護 1・2	1,112名	93名	23名減
要介護 3・4・5	413名	34名	6名減
合計	1,525名	127名	29名減
介護支援専門員 1人あたり		25名	6名減
令和4年度新規契約者数	48名		

イ 総合事業支援業務（要支援認定利用者に対する支援計画作成/市受託事業）

介護区分	延べ人数	月平均	前年比(月平均)
要支援 1・2	183名	15名	3名減
介護支援専門員 1人あたり		3名	増減なし
令和4年度新規契約者数	6名		

ウ 特定相談支援事業（障がい者に対する障害福祉サービス等利用計画作成）

利用者数	前年比	計画作成数	前年比	継続支援回数	前年比
70名	2名増	79件	6件増	251件	12件増
令和4年度新規契約者数		14名			

エ 障害児相談支援事業（障がい児に対する障害福祉サービス等利用計画作成）

利用者数	前年比	計画作成数	前年比	継続支援回数	前年比
18名	1名増	18件	増減なし	50件	6件増
令和4年度新規契約者数		2名			

② 朝礼および定例会

毎朝の朝礼ミーティングで、全職員が当日の訪問予定、前日の訪問時状況報告を必ず行うことで、より具体的に利用者の情報共有を図ることができてきた。

週に1回の定例会では、伝達事項、ケースに関する報告や相談等があれば時間をかけて話し合うようにしている。

担当者が一人でケースを抱えすぎることのないよう、事業所全体で利用者の支援を行うことを意識して日々の業務に取り組んだ。

③ 方針決定会議・事例検討会

事業所として共有および対応方針を決定すべきケースや事業所内で共有が必要なケースについての検討、業務マニュアル等についての話し合いを月に1回行った。また、他事業所との連携を目的として、事例検討会を7月に行った。

④ 地域への貢献

介護支援専門員初任者研修実習生の受け入れ
岡谷市在宅医療介護連携推進検討委員会への参加
諏訪広域連合介護保険審査会委員を担当

⑤ 令和4年度総評

令和4年度は、利用者を事業所の利用者という意識を常に持ち、担当者だけでなく、所属する職員全体で支援を行うことを目標に業務を行ってきた。朝礼や定例会の際に、お互いにケース報告や相談を行うことで、情報をできる限り共有し、担当者不在の場合でも速やかに対応することを心がけてきた。

職員の入退職があり、令和3年度よりも利用者全体数は少ないが、ケースの引き継ぎを行いながら、新規依頼ケースも契約することができてきた。

また、令和4年度では初めて法人全体の経営計画を策定するにあたり、職員それぞれの思いや現状など時間をかけて話し合うことができ、事業所として進むべき方向性をみんなで確認することができた。

新型コロナウイルス感染症に対するリスク管理を徹底することで、業務に支障が出ないよう体制を維持できている。

今後も対人援助職として、自身の健康はもちろんのこと、利用者の状況の変化に敏感に反応し、対応することを心がけ、利用者を事業所全体で支えることを基本に、職員一人ひとりが余裕を持って業務を行うことができるよう職場の環境を整えていきたい。

訪問介護事業所

① 提供サービス実績

ア 訪問介護事業

利用者数(要介護1~5)		月平均	前年比	
		27名	8名減	
令和4年度新規利用者数		8名	1名増	※月平均
サービス区分	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
身体介護	100回	97回減	63時間	63時間減
身体・生活	226回	4回増	273時間	3時間増
生活援助	164回	51回減	156時間	47時間減
乗降介助	0回	1回減	0時間	1時間減
自費利用	11回	1回減	13時間	3時間減
合計	501回	146回減	505時間	117時間減

イ 総合事業

利用者数 (事業対象者、要支援1・2)		月平均	前年比	
		9名	8名減	
令和4年度新規利用者数		0名	2名減	※月平均
サービス区分	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
サービスA	0回	3回減	0時間	3時間減
訪問型独自Ⅰ	10回	28回減	10時間	28時間減
訪問型独自Ⅱ	52回	3回増	52時間	3時間増
訪問型独自Ⅲ	5回	4回減	5時間	4時間減
合計	67回	32回減	67時間	32時間減

ウ 障害福祉サービス事業

利用者数		月平均	前年比	
		40名	7名減	
令和4年度新規利用者数		0名	増減なし	※月平均
総合支援給付	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
重度訪問介護	0回	増減なし	0時間	増減なし
身体介護	12回	15回減	17時間	15時間減
家事援助	111回	22回減	108時間	21時間減
通院介助	4回	9回減	10時間	3時間減
行動援護	3回	1回増	5時間	2時間増
同行援護	35回	2回増	60時間	2時間増
移動支援	21回	2回減	21時間	1時間減
自費利用	0回	9回減	0時間	12時間減
合計	186回	54回減	221時間	48時間減

② ミーティング

連絡事項、利用者情報共有を目的として（毎週月曜日）

③ 勉強会

介護技術、介護計画の理解、接遇等毎回テーマを設け、介護技術の向上を目的として（月1回）

④ 研修会への参加

介護福祉士会等主催の研修会に参加
ヘルパー全員を対象に外部講師による研修を開催（5月・6月）

⑤ 実習生の受入

長野県福祉大学校 2名 三幸福祉カレッジ 3名

⑥ 社協見学会の実施

長野県福祉大学校の介護福祉学科の学生を対象に開催（6月17日）

⑦ 令和4年度総評

利用者が住み慣れた自宅で希望する生活を送ることができるように利用者や家族の思いを尊重した支援を心がけてきた。

従来、月に1回行っていたヘルパー全体のミーティングを週に1回に変更し、職員間での情報共有を積極的に行い、事業所内の全職員で意識を統一し、支援を行うという目標に近づけることができた。

また、支援する利用者の生活全体に目を向けてサービスの提供を行うためには、介護計画を理解することが重要であり、常勤・非常勤の区別なく理解を深めるため、勉強会や外部講師による研修会をとおして、居宅介護支援計画（ケアプラン）や訪問介護計画の勉強を行った。

職員体制については、常勤職員1名が入職したものの、非常勤職員が1名退職し増員には至っておらず、依然厳しい状況にあり、新規利用者を受け入れる体制を整えることができず、利用者数は、自然減も含め大幅に減少している。

職員の獲得は、大きな課題として残っているが、令和4年度中に初めて開催した学生を対象とした社協見学会では、訪問介護という仕事を知ってもらう良い機会となったため、令和5年度以降も継続して開催し、職員の獲得に向けて取り組んでいきたいと考えている。

就労継続支援 B 型事業所「ひだまり作業所」

① 提供サービス実績

開所日時	週5日(月～金) 9:00～15:00
開所日数	237日 (241日)
延べ年間通所者数	4,073名 (3,292名)
1日平均通所者数	17.2名 (13.7名)
年間在籍通所者実数	24名(男性 14名 女性 10名)
市町村別内訳	岡谷市 20名 下諏訪町 3名 諏訪市 1名
令和4年度新規通所者	4名(男性 4名 女性 0名)
令和4年度退所者	3名(男性 2名 女性 1名) 施設入所 男性 1名 支給決定期限切れ 男性 1名 女性 1名
令和4年度通所希望見学者	16名 / 延べ体験日数 42日
令和4年度開催行事	スイーツの会 カラオケ会等を2ヶ月に1回程度開催した

② ミーティング

- ・連絡事項、利用者支援に関する情報共有、行事計画、作業方法、進行状況等の情報共有を図るため、毎月1回開催した。

③ 研修会の開催・参加

- ・連絡会を、嘱託医、行政職員にも参加頂き、4回開催した。専門医から、精神障がい者の状態に沿った支援方法を学ぶ研修となった。
- ・相談支援従事者初任者研修を、令和4年7月から3か月間リモートで1名が受講した。

⑥ 令和4年度総評

令和4年度の延べ年間通所者数は、3,292人から4,073人と781人増加、また、1日平均通所者数も13.7人から17.2人と、いずれも昨年度から増加し利用者の安定した通所ができていた。退所者は施設入所、支給決定期限切れ等の理由で3名であった。

新規通所者3名は、週2～3日の利用から始まった方々であったが安定した通所により、現在では毎日の通所も可能になっている。安定した通所も、1日平均通所者数の増加に繋がった理由の1つである。

しかし、通所者の大半は精神障がい者であり、不安定な精神面のケアには、苦心する場面も多々ある。

受注業務は、御柱年であったことからお菓子の箱詰めを受注数が前半増加し、業務に追われる日々であった。反面、ウエス切り、箱折り、りんごの芯取りは、御柱祭、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けることもなく安定した受注量であった。

今年度、短時間勤務の職員 8 名の協力を得て業務を進めた。

利用者が安定した通所ではあったが、増加した作業量は、職員・ボランティアで対応している状況にあり、今後どのように受注業務をこなしていくのかが、大きな課題である。

IV. 法人経営事業実績報告

第 1 次岡谷市社会福祉協議会経営計画の策定

職員全員参加により経営計画の策定作業を進めた。

各担当・事業所では、活動方針、推進目標や重点項目の検討を重ね、計画の総括は部門代表職員からなる策定委員会を設置し7回の委員会を開催した。

市社協が地域の中でどのような役割を果たすのか、自分たちの働く環境についてなど改めて職員間で意見を交わすことに時間をかけてきたことにより、組織としての認識、意識、部門間の情報共有や連携の意識の向上につながった。

(1) 組織運営、人事、労務管理

・組織強化・体制の整備

新入職員 4名

4月1日付	地域福祉部部門職員	1名	
5月1日付	権利擁護部門職員	1名	
5月21日付	ケアマネージャー	1名	・就労継続支援B型事業所職員 1名
令和5年1月1日付	ケアマネージャー	1名	・ホームヘルパー 1名
令和5年3月1日付	ケアマネージャー	1名	

・人材育成

介護福祉士実習生受入	2名	(長野県福祉大学校)
社協見学会の実施	12名	(長野県福祉大学校)
介護福祉士実習生受入	2名	(三幸福祉カレッジ)
9月1日	障がい者虐待対応研修講師：大谷庄司氏(職員参加25名)	

・多様な働き方の導入

就労継続支援B型事業所において、社協OG職員7名の協力を得ることができ、週1日/3時間~6時間での雇用契約を交わした。

居宅介護支援事業所職員から申し出があり、11月から1名変形労働時間制の適用を開始した。

• 福利厚生事業

生活習慣病予防健診、インフルエンザ予防接種の実施など職員の健康管理に努めた。

9月から就業時間後に、資格試験や自己研鑽のための自由な勉強会の場を開催するなど、自発的な活動や、職員間のコミュニケーションを深めようという新たな動きが出てきている。

こうした想いや行動を大切に育てるために、組織として支援方法等を検討し実施したい。

(2) 財務体制の強化

• 財源の確保

6月28日 会費収納説明会 7月1日～8月31日 社協会費納入期間

実績額 16,664,100円

【内 訳】	一般会費	9,456件	9,439,600円
	賛助会費	3,459件	7,224,500円

共同募金運動 (運動期間10月1日～12月31日)

実績額 15,325,442円

【内 訳】	21 地区13,648,479円	窓口1,608,038円	学校45,062円	募金箱23,863円
-------	------------------	--------------	-----------	------------

10月1日から 赤い羽根共同募金運動を開始した。

社会福祉大会において共同募金 PR ブースを設置、オリジナルバッチなどを活用し、募金運動のPRを図った。

12月31日で募金活動を終了した。目標額を上回ることはできなかったが、市内およそ12,000戸の市民から協力を得ることができた。

• 効果的な運用

基金・積立金は国債、定期預金により運用している。

リスクの低い運用方法を行うことを第一に考え、今後も検討を続ける。

V. 岡谷市社会福祉協議会事業推進組織・役職員体制

(1) 役員

令和5年3月31日現在

理事会	事業推進執行機関	会長1名・副会長3名・常務理事1名・理事11名
監事	事業・会計監査	学識経験者1名・税理士1名
評議員会	議決機関	地域・各種団体代表等16名

(2) 職員

事務局	事務局長兼常務理事	1名	
	岡谷市成年後見支援センター	2名	正規職員2名(内1名市出向職員)
	日常生活自立支援事業	5名	正規職員3名・臨時生活支援員3名
	地域福祉・ボランティア	4名	正規職員4名(ひだまりの家職員含む)
	生きがいづくりデイサービス	4名	正規職員1名・臨時援助員3名
	結婚相談所	1名	臨時相談員1名
事業所	事業所管理	2名	正規職員1名・嘱託職員1名
	居宅介護支援事業所	8名	ケアマネージャー(正規6名・嘱託2名)
	訪問介護事業所	15名	ホームヘルパー(正規4名・パート11名)
	ひだまり作業所(B型作業所)	14名	所長(兼務)・指導員(正規1名・嘱託2名・臨時11名)
おかや総合福祉センター		11名	館長(嘱託1名)・事務員兼業務員(嘱託2名・臨時8名)
合計		60名	

VI. 主たる事業・会議等の開催

月日	説明	月日	説明
4月		5月	
13日	地区社協役員研修会	23日	諏訪ブロックボランティア担当者会議
21日	諏訪ブロック社協局長・次長会議	24日	社協・共同募金委員会会計監査
27日	生きがいデイサービス地区援助員会議	25日	岡谷市高齢者クラブ連合会総会
28日	地区社協会長会監査会	26日	生きがいデイサービス地区援助員会議 橋原地区福祉懇談会
		30日	6市町村後見関係者会議
6月		7月	
2日	ファミサポ提供会員養成講座(全6回) 生きがいデイサービス地区援助員会議	1日	障害者福祉推進実行員会総会 共同募金会運営委員会
3日	ともに支えあう地域福祉を考える学習会 西堀地区社協懇談会	4日	生きがいデイサービス地区援助員会議
6日	社協理事会	4日	岡谷市地域支援会議
7日	ライオンズクラブとの災害支援協定締結式	7日	西堀地区社協懇談会(お宝探し講座)
8日	今井地区社協支えあい研修会	15日	南部中学校福祉講座
10日	福祉推進校連絡会議	16日	ボランティア連絡協議会研修会
13日	社協評議員選任・解任委員会	19.21	サマーチャレんじ2022 事前研修会
		20日	北部中学校福祉学習会

6月 13日 小坂区福祉推進員会議(お宝探し講座) 15日 諏訪湖ハイツ 春季防災訓練 16日 地区社協会長会総会 17日 生きがいデイサービス地区援助員会議 21日 横川地区社協懇談会 23日 社協評議員会・社協理事会 24日 喫茶・売店えいぶる閉店式典 28日 下6ヶ区懇談会(小坂区) 社協会費収納事務説明会 30日 共同募金審査委員会 諏訪ブロック社協総会		7月 25日 岡谷東高校基礎福祉事業 三沢地区社協お宝探し講座事前説明会 28日 諏訪ブロック社協局長・次長会議	
8月 1日～ サマーチャレンジ代替えボランティア体験 19日 南部中学校福祉講座(全3回) 22日 社協理事会 29日 虐待防止・感染症対策委員会		9月 1日 障害者虐待防止研修会(職員対象) 17日 ボランティア連絡協議会会員交流会 29日 生きがいデイ援助員・ボランティア養成講座 30日 共同募金収納事務説明会	
10月 1日 赤い羽根共同募金運動開始 3日 市議会社会委員会との懇談会 災害ボランティア職員派遣(静岡市葵区) 6日 生きがいデイサービス援助員会議 19日 高齢者クラブマレットゴルフ大会 24日 経営計画策定委員会 28日 日常生活自立支援事業現地調査		11月 9日 岡谷市成年後見支援センター運営委員会 12日 岡谷市社会福祉大会 信州ふっころフェスティバル 2022(オンライン) 14日～ 湊小学校福祉教室(全5回) 16日 諏訪湖ハイツ 秋防災訓練	
12月 1日 生きがいデイサービス援助員会議 3日 諏訪ブロックボランティア交流研究集会 7日 高齢者クラブカラオケ芸能祭 8日 障がいについて学ぶ研修会 13日 諏訪ブロック社協役員研修会 17日 ボランティア連絡協議会研修会		1月 17日 地区社協会長会懇談会 19日 社協理事会 25日 高齢者クラブボウリング大会 28日 藍染体験教室(ひだまり作業所) 30日 財政援助団体監査	
2月 1日 岡谷市成年後見支援センター運営委員会 2日 生きがいデイサービス援助員会議 8日 地区社協会長会と市福祉部課長との懇談会 10日 諏訪ブロック社協ボランティア担当者会議 18日～ 高齢者クラブ作品展		3月 2日 生きがいデイサービス援助員会議 3日 下浜区福祉推進員懇談会 6日 共同募金委員会審査委員会 8日 諏訪ブロック社協局長・次長会議 16日 社協理事会 岡谷市地域福祉支援会議 17日 重層的支援体制整備事業研修会(Zoom) 24日 ボランティア連絡協議会総会・講演会 28日 社協評議員会	

【その他定例会議／毎月開催】 ・社協正副会長会 ・民生児童員協議会会長会 ・おかやボランティア連絡協議会定例会

・岡谷市高齢者クラブ連合会三役会・理事会 ・職員(全体)ミーティング ・事務局ミーティング

・諏訪地区後見支援4センター連絡会議